



跡見学園女子大学  
学長  
山田 徹雄

## ご挨拶

# 創立50周年を控え さらなる教育環境の 充実に努めます

## 跡

見学園女子大学は開設以来、学園創立者・跡見花蹊の教えに基づき、実践的な教養と品性を備え、自律し、自立した女性を育成してきました。

本学にとって第一のブレイクスルーといえるマネジメント学部が設置されたのは2002（平成14）年。以来、文・マネジメントの2学部順次新学科を増設し、2学部7学科構成による総合大学へと発展してきました。この間、大学を取り巻く環境はますます厳しさを増し、今や

競争に耐えうる教育・研究水準を保てなければ生き残れない状況となっています。このような厳しい環境のもと、本学は

2015（平成27）年に創立50周年を迎えます。これを機に、第二のブレイクスルーとなる改革を推進し、一層の教育環境の充実をはかる所存です。具体的には、「新学部の設置」、「既存学科の教育課程の見直し」、「社会への発展」といった3つの柱を中心に構想を立てています。

私立大学の半数近くが定員割れを起しておりますが、幸い本学は十分な入学定員を確保しています。また、財務的に厳しい状況にある私立大学は、入学定員800人未満であることを踏まえ、スケールメリットを考えなければなりません。このような現状から、定員増を含めた新たな学部の設置を検討しています。

新学部の設置、既存学科の教育課程の見直しは、進展するグローバル化に対応し、世界に通用する教育・研究水準を構築するとともに、地域との連携をより強化し、地域社会の「知の拠点」となることを目指します。その先駆けとして、本年4月、文京キャンパスのすぐ側に、地域への情報発信・文化活動の拠点となる「跡見ギャラリー」を

開設しました。ギャラリー1階には学園の歴史を再現する展示や本学学生・文京区民の作品展示などを行うスペースが設けられています。2階は本学の心理教育相談所分室としての機能を持ち、個別の相談や「不登校を考える親の会」、シニアのためのティーサロンといった、地域住民の心をケアするサービスを実施しています。

このような改革を実行し、社会に、そして世界に開かれた大学となるためには、教員・学生が一体となってグローバルスタンダードを目指すという気構えが必要です。学園関係者の皆さまも、新しい時代の大学像を構築するという本学の趣旨をご理解いただき、より一層のご協力を賜りたくお願い申し上げます。